

# 松江赤十字病院 『患者さまの権利章典』

「医療は、患者さまと医療提供者とのお互いの信頼関係をもとに協力して作り上げていくものであり、患者さまに主体的に参加していただくことが必要です。」  
このような考え方にもとづき、松江赤十字病院は、患者さまの権利や責務についてつぎのとおり表明します。

1. 患者さまには、医療提供者との相互の協力関係のもと、良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 患者さまには、診療に関して十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
3. 患者さまには、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについて十分理解できるまで質問する権利があります。
4. 患者さまには、医療従事者が提案する治療法に対して自らの意思で決定できる権利があります。
5. 患者さまには、診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られる権利があります。
6. 患者さまには、医療提供者に対し患者さま自身の健康に関する情報をできるだけ正確に提供する責務があります。
7. 患者さまには、病院の規則を守る責務があります。

# くつぎたいは

第28号(2009年 春号) 松江赤十字病院

## 病院理念

松江赤十字病院は、地域の中核医療機関として、「高度」「良質」「公正」な医療を提供します。

## 松江赤十字病院

いのちの大切さを感じて

# 「いのちを考えるゆうべ」開催



がん診療連携拠点病院のひとつです。がんについての講演会やイベントをこれまで行ってきましたが、「いのちを考えるゆうべ」、この新しい企画は、映画や対談など少し形を変えて市民の皆さんに命の大切さを感じてもらおうというものです。

「おがっち」こと小片悦子さんの対談でご紹介しました。そして、二十歳で乳がんに罹ったヒロインが、つらい闘病生活に耐え希望を見つけ明るく生きていくという映画、「Mayu こころの星」を上映し、来場のみなさんに「いのちの大切さ」を考えるひと時としていただいたのです。

映中は観客席からすすり泣く声が聞こえ、終了後の来場者のみなさんの目には涙のあとが……。「急いで帰る気になれず、星王子の下をゆっくり歩いて帰りました。」とは来場していただいたミュージシャンの浜田真理子さんが、後日新聞のコラムに書かれていた一文です。平日の夕方ということもありましたが、二〇〇名近くの方に来場していただき、みなさん一人ひとりに「いのちの大切さ」を感じていただきたいというメッセージはきくと伝わったのではないかと思います。

三月六日、島根県民会館中ホール。「おがっち」の軽妙な語り会場内から笑い声が聞こえます。松江赤十字病院としてはじめての試み、「いのちを考えるゆうべ」はこうして幕を開けました。

ご存知かもしれませんが、当院は松江地域の

「どうして生きるの？」じゃなく、「何があるでも生きなきゃいけない」

日時 2009年3月6日[金] 18:00-20:50  
場所 島根県民会館 中ホール

対談 「Mayu-ココロの星-」上映によせて  
小片悦子 (おがっち) ラジオパーソナリティ  
村田陽子 (松江赤十字病院 がん相談支援センター)

上映 「Mayu-ココロの星-」

入場無料

もし21歳で乳がんになったら、ひとりの女性の生き様が、何よりも「いのち」を考える。

女性の乳がん死亡率ゼロを願って。  
乳がんは日本でも癌部の一環をたどっており、40歳代で増加し始めます。  
しかし、早期発見すれば、80%以上は生存率を向上させることができます。  
ぜひ検診を受けましょう。

主催 松江赤十字病院  
問い合わせ先 松江赤十字病院 がん相談支援センター Tel.0852-32-7022

日本赤十字社 松江赤十字病院  
Red Cross Society of Japan Matsuyama Red Cross Hospital

# チーム医療紹介

## 緩和ケアチーム



さんへの診療と緩和ケア相談、がん患者サロンのサポートを行っています。

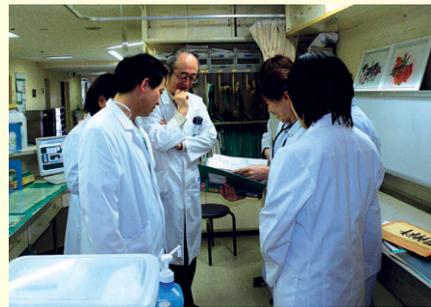
緩和ケアというと末期医療をイメージされる方もいらっしゃると思います。松江を舞台としたドラマ『だんだん』の中で、祖母が「辛い抗がん治療を止めたい」と話し、孫たちは「頑張って治療を受けて欲しい」と応援する場面がありました。本人が辛いのなら治療を止め、緩和ケアを受けることが良いのでは？ と、ドラマを見て話された方がありますが、副作用を和らげ治療を続けていけるよう支援することも緩和ケアの役割のひとつです。QOL（生活と生命の質）を高

緩和ケアは、がんなど生命を脅かす病気やその治療に伴う苦痛な症状、苦しみ・悩みを和らげ、その人らしい、豊かな生活への支援を目的に、専門職がチームで提供するケアです。当院では、がん診療連携拠点病院として、二〇〇五年より緩和ケアチーム活動を始め、年間七〇〇八〇名の患者

めて病状に良い影響を与える、がん告知による心の辛さを和らげるなど、早期から、治療を目指して闘病される患者さんにご利用いただける利点がたくさんあります。一方、抗がん治療をやむなく終えられた方へは、進行に伴う辛さを緩和し、自分らしく生きることを支える関りを行います。

実際当チームへの依頼も病期を問わず、痛み・だるさ・むくみ他の身体症状の緩和、再発や死の不安、不眠・気持ちの落ち込みなど精神面のケア、退院への支援や家族のケアなど多岐にわたっています。このような様々な心と体の状態へ対応するために、身体科医師四名、精神科医師一名、看護師四名、薬剤師、管理栄養士、臨床心理士、理学療法士、医療社会福祉士、事務員で緩和ケアチームは構成されています。ご本人・ご家族の要望、主治医からの依頼を受けてチーム医療をスタートし、患者さん・ご家族の希望を聴き、目標を一緒に考

え、個々の症状緩和に必要なメンバーが主治医・病棟看護師と協力して患者さん・ご家族を中心にチームを組み、各々が専門性を発揮しながら治療・ケアに当たっています。この外に、緩和ケアの質向上へ医療者や患者さん・ご家族を対象とした研修・啓蒙活動も行なっています。



苦しみが少しでも和らぎ、自分らしく過ごしていただくことが、緩和ケアチームの願いです。緩和ケアチーム診療、緩和ケア相談、がん患者と家族の会くつろぎサロンなど、様々な松江赤十字病院緩和ケアをご利用ください。（詳しくは緩和ケアのご案内をご覧ください）

昭和四十三年に「水曜会」として産声をあげた糖尿病友の会。内科の横山昇先生が毎週水曜日に糖尿病教室を始められ、それが友の会活動へと発展しました。それから四〇年。途中「すこやか会」と名前は変わりましたが、今も変わらず会員さん方が率先して行事の企画をされ、日帰りや一泊のレクリエーション、講演会や機関紙の発行など活発な活動が行われています。

### 創立四〇周年を迎えて 松江赤十字病院 糖尿病友の会「すこやか会」

#### 「すこやか会」

昭和四十三年に「水曜会」として産声をあげた糖尿病友の会。内科の横山昇先生が毎週水曜日に糖尿病教室を始められ、それが友の会活動へと発展しました。それから四〇年。途中「すこやか会」と名前は変わりましたが、今も変わらず会員さん方が率先して行事の企画をされ、日帰りや一泊のレクリエーション、講演会や機関紙の発行など活発な活動が行われています。

三月八日には秦院長先生にもご臨席いただいたいてホテル一畑で四〇周年記念式典と記念パーティーを開催しました。当日は会場内に会員さん自慢の趣味の作品を展示。記念講演を聞き、安来節の公演を楽しみ、食事を

しながら思い出話を花を咲かせました。また、会員さんから原稿を募って編集した「四〇周年記念誌」も完成し、大切な節目を皆で祝えたことを喜び合いました。これからも会員の方々が毎日元気に過ごされ、一〇年後の五十周年を盛大にお祝いできることを心から願っています。



2009 4月医師紹介



形成外科  
諸岡 真

長崎から来ました。外来診療中、病棟診療中長崎弁で喋っているようにです。なるべく伝わりやすい言葉を使うようにします。



形成外科  
池野屋 慎太郎

四月より勤務させて頂いております。やけどやけが、できものなど形成外科医として皆様の治療に協力させて頂き、よりよい状態で治療が終えられる様お話ししながら一緒に頑張っていきたいと思っております。宜しくお願い致します。



小児科  
堀江 昭好

四月から小児科に勤務となりました。生まれ育った松江で、少しでもみなさんのお役に立てるように頑張りたいと思っております。宜しくお願い致します。



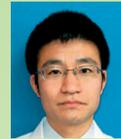
呼吸器内科  
武田 賢一

呼吸器科の武田です。適切な診断こそ正しい治療につながると思っております。日々精進しますのでよろしくお願い致します。



消化器内科  
角田 恵理奈

四月から消化器科に赴任して参りました。今までは出雲で診療を行なっていました。まだ不慣れな所はありますが、早く慣れ、皆様の健康に少しでもお役に立てれば幸いです。



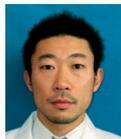
小児科  
束本 和紀

皆さんこんにちは。小児科の束本です。子供さんの笑顔に元気をもらいながら毎日がんばっています。子供たちがなるべく笑顔でいられるように、微力ながらサポートしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



病理部  
山本 智彦

病理部医師として働くことになりました山本智彦と申します。患者さんの組織（胃や腸、肺など）から行う病理診断（癌か良性かなど）は治療の根幹となる最終診断につながります。常に正しい診断を心がけて日々研鑽に励もうと思っております。



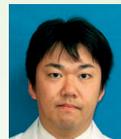
歯科口腔外科  
大竹 史浩

平成二十一年四月一日より歯科口腔外科に就任した大竹史浩と申します。診療は主に一般歯科治療全般、口腔外科領域疾患（口の中のできものなど）を取り扱っております。また顎関節症という疾患にも力を入れてがんばっております。顎がカクカク音がする、口を開け閉めする時や、強く噛みしめる時に耳の前が痛い、口が開けにくいなどの症状は顎関節症の可能性があり治療を必要とする場合があります。このような症状がある場合は気軽に御相談ください。



麻酔科  
山崎 祐子

四月から麻酔科に赴任して参りました。患者様が少しでも安心して手術を受けることができるよう努めていきたいと思っております。宜しくお願い致します。



放射線科  
西原 圭祐

四月より松江赤十字病院に赴任してまいりました。近年の画像診断学は著しく進歩し、専門化、複雑化しております。画像診断の専門医として皆様のお役にたてるよう頑張りたいと思っております。



呼吸器外科  
坂口 泰人

滋賀県の市立長浜病院より、このたび異動してきました。勝手が違い、色々とお迷惑もおかけすると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



脳神経外科  
大林 直彦

脳神経外科医・脳血管内治療医として勤務させていただくこととなりました。病気についてわかりやすく説明し、患者さんやご家族と一緒に最善の治療方針を考えたいたいと思っております。



高層棟八階  
西病棟スタッフ  
ステーション

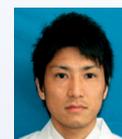


低層棟一階エントランス

平成24年迄皆様方からの新病院建設寄附金を募っております。

総務課

新病院イメージ図



麻酔科  
榊原 学

はじめまして、元気の良さが取り柄の麻酔科医です。松江に住むのは高校の時以来であり懐かしい気持ちで一杯です。体力とスタミナでは誰にも負けない自信があるので、その力を仕事でも発揮していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



糖尿病・内分泌内科  
永澤 篤司

糖尿病内分泌内科の永澤と申します。これまで、島根県内の山間地、隠岐地方で地域医療に従事してまいりました。地域で得た様々な経験を生かし、当地域での医療に貢献したいと考えております。糖尿病、内分泌疾患以外でも力になれることがあるかも知れませんので、気軽に声をかけてください。

# 入院時にはお薬をご持参ください 患者さまに安全で安心な医療を提供するために

◆入院時には、普段お  
使っている薬  
をご持参ください。

近年、ジェネリック  
医薬品（後発医薬品）  
の普及により、名前が  
全く違うのに同じ効果  
をもつ薬が何種類も流  
通するようになりました。

これに伴って、複数の  
病院を受診した方が、  
処方された薬が同じ効  
果の薬であるとは知らず、  
それぞれを飲み続けて  
しまうという間違いが  
増えています。当院では、  
このようなことを防ぐ  
ために入院時には患者  
さまが現在お使いにな  
っている薬を確認させ  
ていただきます。

## ◆安全と安心のために

この確認は、患者さ  
まが使用される薬に関  
して正確な情報を得て、  
重複投与の防止や副作  
用などをチェックする  
ために非常に大切です。

確認させていただく  
ものは、当院及び他院  
で処方された薬で、現  
在お使いになっている  
もの“です。また、薬  
と一緒にもらった「薬  
の説明書」や「薬袋（薬  
の入っている袋）」「お  
薬手帳」などは大切な  
情報源となりますので、  
これらも一緒にお持ち  
ください。

## ◆確認の重要性

薬の中には、出血を  
止めにくする作用など、  
手術や検査に影響を与  
える薬も多く含まれて

います。  
また、飲み合わせの悪  
い薬もあるために、事  
前に薬の内容を確認さ  
せていただく必要があ  
ります。

安全で安心な医療を  
提供するためにも、患  
者さまのご理解とご協  
力をお願いします。

## ☆持参いただくもの

### 薬

（現在使用されてい  
る全ての薬）

### 薬の説明書

（服薬説明指導書）

### お薬手帳

### 薬袋

（薬の入っている袋）



## ☆料理の世界☆ 春は桜

宋養課

奥野 将徳



桜えびのクリスピー木の芽和え

美しい桜色をしている  
ことから、海の宝石とも  
呼ばれている桜えび。古  
くから駿河湾の特産品と  
して知られています。深  
海に生息する体長四〜五  
cmの桜えび、水揚げされ  
ると透明な身がすぐに美  
しい桜色になることから  
その名がつけました。世  
界でも希少な生物で、国  
内では主に駿河湾だけで  
とれる貴重品です。資源  
保護のため、漁期は三月  
からの春漁と、十月から  
の秋漁の年二回行われま  
すが、産卵に備えて身が  
太る春は美味しさも格別

です。水揚げされた桜え  
びは鮮度が落ちないうち  
に素干しや釜揚げにされ  
ますが、旬の時期はとれ  
たての生桜えびを味わえ  
るのも大きな楽しみです。  
桜えびは栄養的に大変  
優れた食材です。カルシ  
ウム、鉄などのミネラル、  
EPAやDHA、タウリン  
などが豊富に含まれて  
おり、しかも、ほとんどの  
エビは殻をむいて食べ  
ますが、桜えびは殻ごと  
食べられるので無駄があ  
りません。また、見逃せ  
ないのが殻に含まれる食



桜えびのチヂミ

## 健康医学講座

5月15日[金] 14:00 ~ 15:30

### ピロリ菌の関係した病気と除菌治療

講師 総合診療科部長 井上 和彦

6月24日[水] 14:00 ~ 15:30

### メタボリックシンドロームと心臓病

講師 循環器内科医師 加藤 康子

7月23日[木] 14:00 ~ 15:30

### 蓄膿症の内視鏡手術について

講師 耳鼻いんこう科副部長 松田 英賢

物繊維のキチン質と抗酸  
化成分のアスタキサンチ  
ン。キチン質にはコレス  
テロールや塩分を体外に  
排出する働きがあり、ア  
スタキサンチンには老化  
の原因である活性酸素の  
成分を抑える作用がある  
といわれています。  
小さな体に驚くほどの  
栄養成分を秘めた桜えび  
を、毎日の食生活に取り  
入れてみませんか。